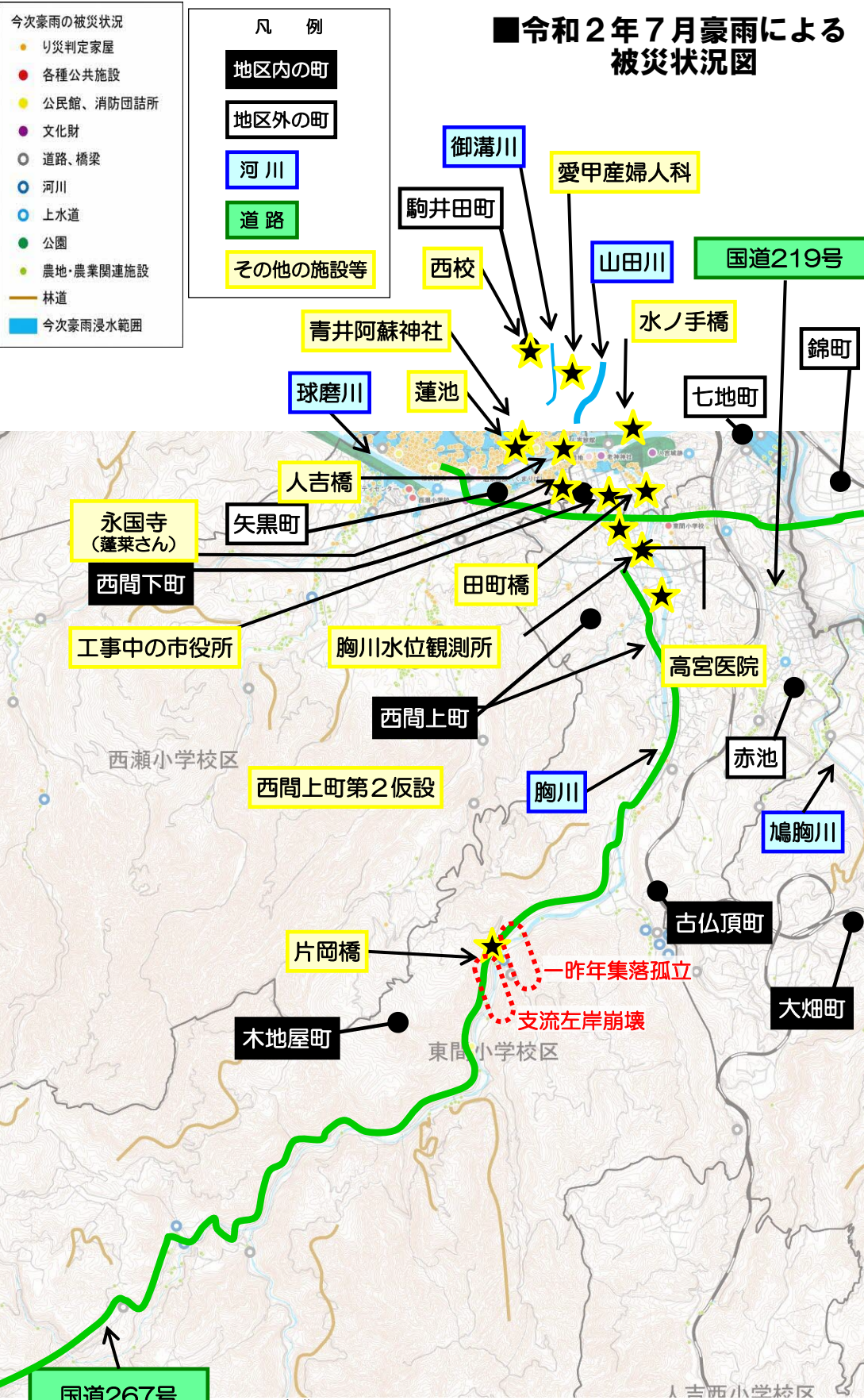


※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。



項目		東間校区の主な課題や要望について
避難対策	避難場所	・熊本地震で西原村へボランティアに行ったが、避難場所で自治が成立していた。
	要支援者対策	・6月の出水期までに防災訓練をする。町内は範囲が広く山もあり、狭い道もある。 工事中の市役所 を避難場所とした場合、要介護者、車椅子利用者をどう避難させるか。【西間下町】
	避難誘導	・避難勧告を2回出した。 ・バス会社と提携し、歩けない人をバスに乗せ高台の 西校 へ行くようにしていた。 球磨川 のparaペットの下まで水がきたら避難勧告を出さないといけない。今回は弱者避難の手段がなかった。福永市長の時は2回出した。 ・今回、油断があり、避難勧告が遅れた。もっと早く避難しないとダメだ。 ・いくつかの油断が重なって今回の大きな災害になったことは否めない事実だ。12年前にダムに頼らない治水で凍結しかてら12年間何をしていたのか。 ・防災無線は山つきではが反響してよくわからない、聞こえなかった。 ・状況がよくわからない、災害の情報が遅れた。
道路	・ 国道267号 が2車線で抜けており峠の手前から人吉市内までの間で、既存の旧橋3ヶ所の橋桁にボンボン当たっていた。 ・一昨年、掘削した所。	
住まい再建	住まいの再建	・『このまま再建して良かったのか、よくわからない。』と各地で聞いてきた。 ・生活再建の パターン を急いで欲しい。そうでないと何もできない。被災状況は千差万別だ。
	復興まちづくり	・国がするのか、県がするのか、市がするのか、我々に届いてこない。今もまだ進んでいない。昭和46、47年に3回続けて水害が起こっている。今度また3回続けば、立ち直る力はないと思う。【西間上町】 ・国、県、市の役割、柔軟な対応が重要だ。 ・現在の位置に住み続けたい。 ・仮設団地にボランティアが入って食事の提供をしたり、話し相手になったり、子供と遊んだりして、孤立化を防いでいる。 ・ハード、ソフトの計画も必要だが、お金が必要だ。お金があれば何でもできる。 ・また浸水する所に家を再建している。 ・七地町、都市計画区域を見直すべき。
治水	治水環境共生	・赤池や大畑からくる 鳩胸川 の出口は錦町で、橋も流れ、赤池も砂利で埋まった。田んぼが遊水池のようになった。 ・以前は 胸川 の水位の基準を 球磨川の水ノ手橋 の所としていたが無意味なので、現在は 胸川水位観測所 を 国道219号 の下に設置している。 ・ 胸川 沿い、 支流 に砂防ダムが必要だ。年々増えている。 ・市の川の監視体制が必要だった。 ・ 胸川 が 井田橋 で河川狭窄している。 ・ 胸川 は上流まで、流木・立木が塞ぐ。 ・一昨年、掘削した所。 ・ イッチョウダ地区 、 人吉橋 のきわは去年の3月まで堤防がなかったが、護岸工事のおかげで助かった。しかし甚大な被害が出た。 ・ 二級河川の支流 にもっと目配せが必要だ。災いの大元凶になる。 ・ 山江村長 と話をしたが、既存の砂防ダムが満タンになっているので、もう1段ダムを要望している。 ・これまで洪水のたびに堤防の嵩上げをしてきた。 大柿地区中神エリア は絶対安全だという工事をしていたが想定外の線状降水帯で浸かった。 ・昭和40年代にできた五木砂防ダムは、満タンで効果なし。 ・ダム建設を前提で進める必要がある。ダム前提の話か、ダムなし前提の話か？

【左岸地区（西間下町）の重点地区（案）への意見】

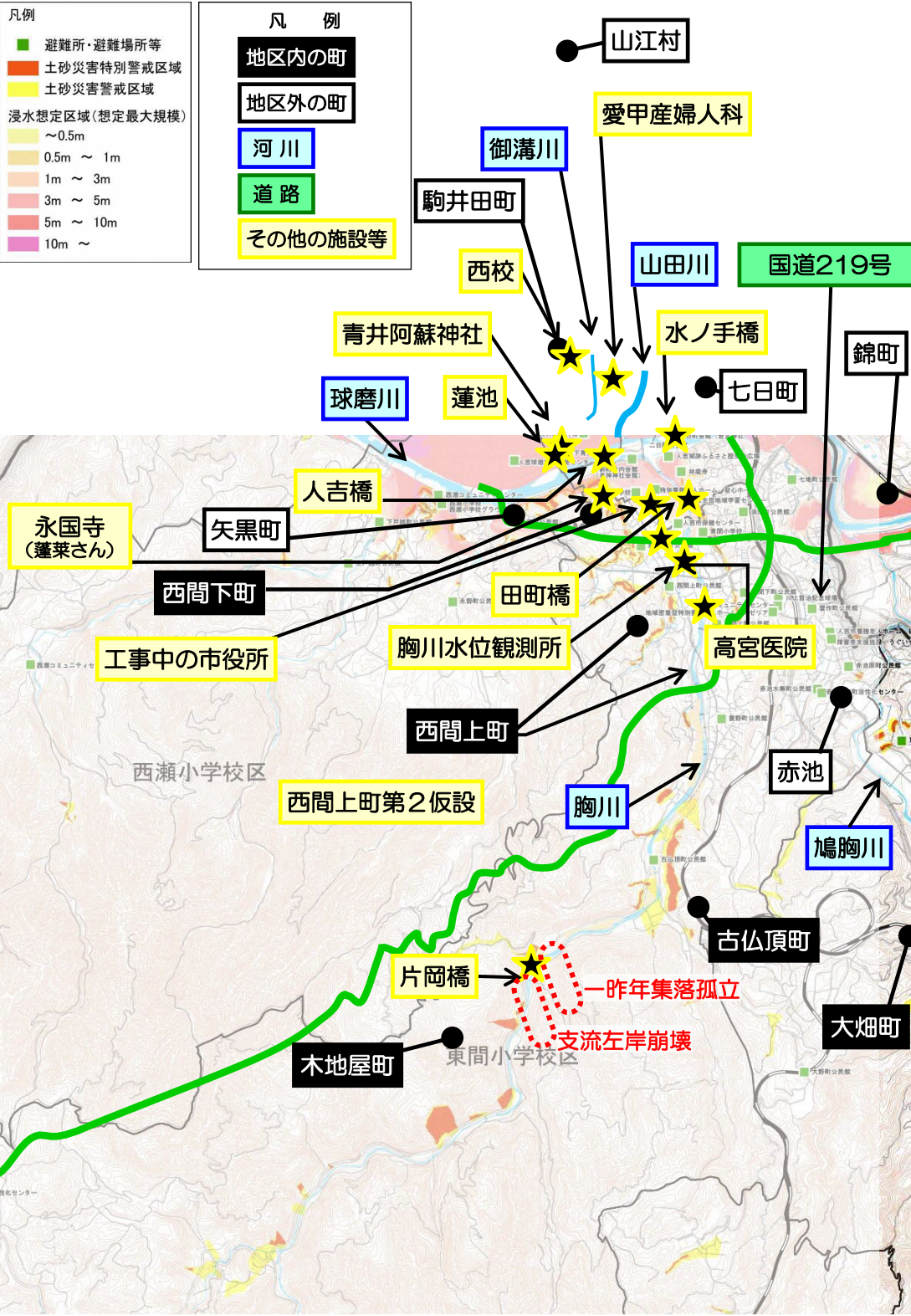
- ・球磨川の流域治水を考える時に、ポイントのひとつとなるのが人吉だと思うが、他の市町村との兼ね合いは？
- ・胸川沿いも入れてはどうか？
- ・西間下町第6ブロック（イッチョウダ地区）は町民全員を対象に意見を聞く。
- ・消防団関係にも意見を聞く。
- ・矢黒町は流域なので左岸側で一緒に考える方が良いのでは？
- ・錦町は入らないのか？

※出典：
 ・り災判定家屋：り災判定（令和3年2月上旬時点）
 ・各施設：庁内資料（被害報告）
 ・今次豪雨浸水範囲：八代河川国道事務所提供資料（球磨川本川のみ）

第2回 校區別座談会【3/23東間校区】の意見まとめ① 西間下町等（西間上町、西間下町、東間上町、東間下町、波床町、七地町、蓑野町、古仏頂町）

※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

■避難所・避難場所、災害リスク図



項目	東間校区の主な課題や要望について
治山	<ul style="list-style-type: none"> 今は山を切って運搬路を作り、切った木を横に並べているため土砂が詰まり、押し流され道が川となり流れてくる。 国有林も広い。 山が荒れている。間村の財産区、東間と大畑町で3千町歩の山を管理している。 植林後、毎年毎年伐採の時期が一度にくる。植林しても根づくまで15年かかる。保水力が弱い幼木があると、沢に限って地すべりが起こる。 胸川沿いは伐採が多い。流木、立木崩れて側溝が詰まる。 伐採面積が広く、植林が追いつかないため崩落する。 球磨川、矢黒町から国道219号までの永国寺(蓬萊さん)は一つの大きな山で、過去にゴルフ場やリゾートホテルの構想があったが、シラスで急傾斜地に指定されている。山の害にも着目すべきだ。
被害状況	<ul style="list-style-type: none"> 西間下町は上からの流れで被害が出たが、矢黒町は裏の山水が溜まって沈んだ。山の水をどうにかしなければならない。 水害を多く経験していたというおごり、油断があった。急激な水位上昇だった。 先を先をとという意識が重要。 昭和54年の水害では木地屋町から古仏頂町まで道路も田んぼも川になり、営林署のマイクロバスが流され2名行方不明のまま。 昔は駒井田町までで止まっていたが、今回は2mを超え浸かった。中断があった。 昭和46、47年の水害は、市中心部の御溝川に水を引っ張るための水路が内水氾濫し、青井阿蘇神社の蓮池が球磨川の氾濫よりも先に溢れ、下青井町が浸水した。その後、愛甲産婦人科のあたりは竹で山田川の護岸が弱くどんどん壊れていったが、今回のような水位上昇の記憶はない。 田町は昔、山が崩れた。 西間上町第2仮設が建っている所は、昔、コナガノ川の氾濫で浸水した。高宮医院の後の西間上町、西間下町も浸かった。中小河川の氾濫が至る所で起こった。 田町橋から下流はバックウォーター現象で浸かった。かなりの土砂堆積だった。 地すべりで川が狭くV字型で、大塚地区から片岡橋(左岸側橋の近くがえぐられていた)、胸川橋から右岸が浸水すると思う。 線状降水帯。 法面が削られそう。 3日から増え始めた。もっと早く避難すべきだった。 土地土地、場所ごとに災害によって被災パターンが違う。球磨川沿いで被災しなかった場所は天国だが、街中では流され亡くなった人もおり、紙一重だった。しかし、状況がよくわからず、県外知人からの情報で球磨川の状況を知った。 市に専門家がない。 水が出だしたのが6時半、九日町筋等々の都計は7時15分で止まっている。45分であの水位まで増えた。
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 全部を防ぐことは無理なので、『防災』ではなく『減災』を考える。 減災のために具体的に何をするのかを、数字の羅列や紙資料でなく、3DやVR等でビジュアル化して示して欲しい。復興の様子や被害の予想など、何がどう変わるのかを示して欲しい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 消防団 <ul style="list-style-type: none"> 西間下町、上町で第5分団第1部を組織しており、団員は5~12名。【西間下町 第6ブロック(イチョウダ地区)】 その他 <ul style="list-style-type: none"> 都市計画の見直しが必要。下水道があふれる。

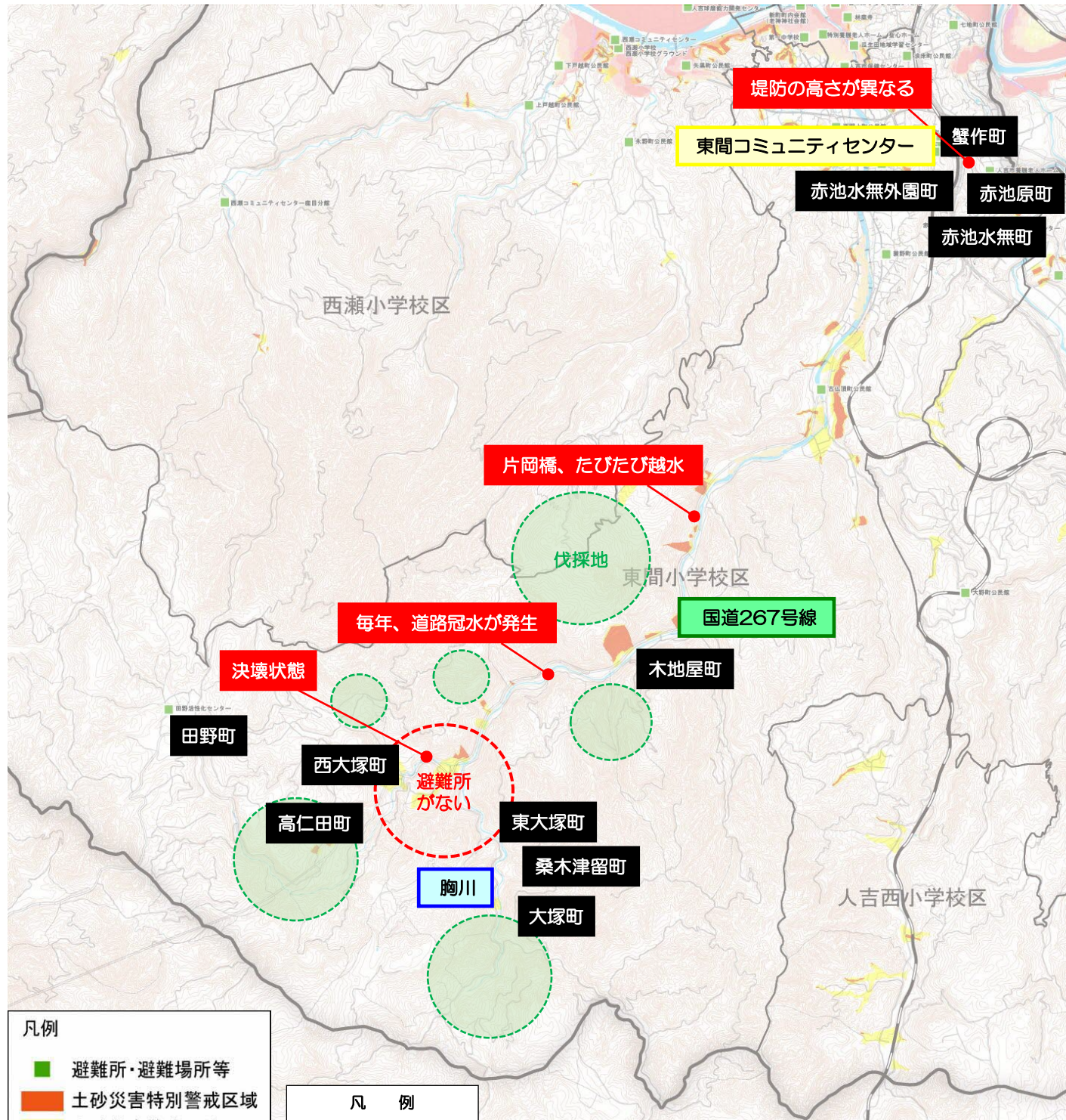
※出典：
 ・避難所・避難場所等：人吉市総合防災マップ
 ・土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域：国土数値情報
 ・浸水想定区域(想定最大規模)：
 八代河川国道事務所提供資料(球磨川本川)
 熊本県提供資料(万江川、胸川)
 ※上記以外の河川については浸水想定区域が未公表

第2回 校區別座談会【3/23東間校区】の意見まとめ②

蟹作町、赤池原町、赤池水無町、赤池水無町外園町、木地屋町、東大塚町桑木津留町、大塚町、西大塚町、高仁田町、田野町

※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

■避難所・避難場所、災害リスク図



- 凡例
- 避難所・避難場所等
 - 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域
- 浸水想定区域(想定最大規模)
- ～0.5m
 - 0.5m ～ 1m
 - 1m ～ 3m
 - 3m ～ 5m
 - 5m ～ 10m
 - 10m ～

- 凡例
- 地区内の町
 - 地区外の町
 - 河川
 - 道路
 - その他の施設等

※出典：
 ・避難所・避難場所等：人吉市総合防災マップ
 ・土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域：国土数値情報
 ・浸水想定区域（想定最大規模）：八代河川国道事務所提供資料（球磨川本川） 熊本県提供資料（万江川、胸川）
 ※上記以外の河川については浸水想定区域が未公表

項目	東校区の主な課題や要望について
避難方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 避難について、空振りでも受け入れられる地域 避難所に食料がない、床で寝たなどしたため、高齢者は避難所で過ごすのを嫌っている。→備蓄の充実を図る必要がある。 町内に避難所がないので、周辺町内と共同の避難所を設けたい。 町内周辺に避難所がないので、公民館・私宅の備蓄能力を上げる必要がある。 胸川下流について、橋を渡って避難所に行くのが困難な住民（現在仮設住宅で生活を送っている方）には石野公園に避難する等の指導・情報提供を行政にお願いしたい。【赤池原町】 発電機を装備する必要がある。 昨年木地屋の公民館で、他の町内から避難した住民を受け入れた。 避難所が被災して使えない状態にある。代替地での再建に対する県などの支援（堆積土砂による嵩上げ、含）はあるのか。【木地屋町】 →市役所に先ず相談
避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 透析を必要とする住民に対し、どの様に対処するのか。 山間部の町内は、国道しか道がないので逃げ道がない。 地区内から下手に逃げない方が、より安全である。（道路の浸水他のため） 大塚町周辺は伊佐市大口の方に避難する。 天気予報等を確認し、早めに避難を開始する。 電話不通、道路冠水が命に直結しかねないので、注意が必要である。 レベル3の状態、町内会役員に全住民に対する避難誘導を求められても厳しい。 【木地屋町】南北に長く、高い場所に位置するので、連絡もらっても危険である。 高齢者が多い中で、どの段階で、どの様に、誰に頼んで避難させるかが課題である。 <p>※山間部の避難事例を聞きたい。</p>
道路等	<ul style="list-style-type: none"> 国道267号線が毎年のように浸水、またはがけ崩れが発生し、交通止めになる。 国道267号線の一部道路が川側より山側の方が低くなっているため、水が溜まりやすい。
生業再建	<ul style="list-style-type: none"> 田畑に流入した土砂をいつ取り除くのか。4月までに結論を出してもらわないと、6月の田植えの準備ができない。 スギ、ヒノキの皆伐が進んでいる。伐採を終えた土地には広葉樹を植樹している。但し、植樹しても鹿の害がある。
住まいの再建	<ul style="list-style-type: none"> 次回出水期までにライフラインの安全を確保する。 仮設住宅、相談はない。別コミュニティで行う。
復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 人口減、過疎化が進む地域である。 木地屋公民館が浸水し、隣の消防団詰所が流出した 消防、防災サポーターの仕組みが存在する。
治水 環境共生	<ul style="list-style-type: none"> 県と市、それぞれ管理する堤防の高さが異なる。浸水する危険性が高い。 地区内に数多くの伐採地があり、土砂崩れが心配される。営林署と今後について協議する必要がある。 胸川の流れが変わってきた。 支流に複数の砂防ダムを築く必要がある。但し、砂防ダムは直ぐに土砂が溜まってしまふ。環境に影響のない、小さなダムでコントロールしていくべきではないか。 河道掘削をする必要がある。十字ブロックが流された。【木地屋】